

自 己 評 価 表

愛媛県立今治工業高等学校
学校番号 17

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的國家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ — いい汗をかこう — 足もとをしっかり見つめ、幅広い視野で時の流れを多面的にとらえよう 1 確かな学力の定着と専門的実践力の育成 2 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 3 豊かな人間性・社会性の育成 4 望ましい勤労観や職業観の育成 5 安心・安全な学校づくりの推進
------	--------------------------------------------------------------------------------	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
工業教育	地域産業スペシャリスト育成事業の充実	インターンシップやデュアルシステム、マッチングフェアの充実と、地域産業スペシャリスト育成事業を活用した地域産業界との更なる連携を図る。	A	2年生でのインターンシップ、マッチングフェア、3年生でのデュアルシステム等において工業各科が積極的に実施した。	インターンシップやデュアルシステムを通して、早い時期からの専門的職業人の育成を図る。
	ものづくり教育の推進	各種のものづくり大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業との連携を図り、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の向上に努める。	B	工業各科で様々な競技大会に挑戦し、幅広い分野において成果が出た。また、生徒・教員の技術も向上した。	企業・技能士とのさらなる連携を深め、指導体制の充実を図る。
		ものづくり企業を積極的に訪問し、匠の技教室の実施によって、生徒・教員のスキルアップを図るとともに、専門教育の更なる充実につなげる。	B	愛媛のものづくり企業「すご技」企業を訪問することで、工業科教員のスキルアップを図ることができ、専門教育を充実させることができた。	実施方法や実施時期などを検討し、今後の充実を図る。
	資格・検定取得の奨励	各種の検定試験等に積極的に挑戦させるために、授業や放課後の資格取得における指導体制の充実を図る。	B	工業各科において、授業や放課後・休日の充実した補習によって、検定試験への取組の成果が表れている。	検定ごとに指導方法を検討し、さらに効率的な指導を目指す。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。	B	学習意欲に欠け、基礎学力の定着がみられない生徒の指導を、根気強く継続的に実施することにより、学力向上が見られる。	各科の取組だけでなく、学校全体として共通の認識のもと、時間の有効活用を検討し学力の定着に努める。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に積極的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。	B	研修の機会や参加者の数が昨年度より増えたが、内容面ではまだまだ検討の余地がある。	内容の精選を行い、慣例にならないように実施する。
		生徒による授業評価を実施し、授業内容と指導方法の改善を図る。	A	評価内容を変更し、全教科、全校生徒を対象に実施した。グラフ化することにより指導等の改善につながっている。また、生徒自身、学習方法等について見直し、改善点が図れる。	評価の結果をもとに授業の方法など、改善点を検討する。生徒自身が振り返ることにより反省だけでなく、今後の取組の参考にさせる。
	図書室及び図書利用の促進	図書室利用の啓発に努め、読書会や集団読書の充実を図る。(生徒一人当たり年間貸出冊数3冊以上)	A	学級文庫の活用や読書会の実施など、図書委員を中心に意欲的に活動できた。(生徒一人当たり年間貸出冊数3.0冊)	読書会やビブリオバトルの規模拡大、学級文庫のさらなる充実等、図書委員を中心に取り組んでいきたい。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動(運動会・文化祭・クラスマッチ等)への積極的参加と主体的な運営に努める。	A	生徒会、インターアクト部を中心に自主的、積極的な運営ができた。また、新生徒会役員も更に一生懸命に取り組んでいる。	新生徒会役員を中心に、企画運営を行っていききたい。生徒会役員にも主体性が出てきているので、さらに伸ばしていきたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上、県総体140名以上、四国総体4競技以上を目指す。	A	全国大会での入賞、四国大会での優勝などの成績を残し、活性化している。部活動加入率、県総体、四国大会出場数でも目標を達成することができた。	部活動加入率の維持、競技成績の面においても、今年度と同等以上の成績を収めることができるように、生徒、教員が一丸となって取り組みたい。
	ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への自主的・積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	B	生徒会役員、インターアクト部を中心に様々な活動に積極的に取り組むことができた。	今年度と同等の活動を心掛けたい。生徒からの積極的な呼びかけを期待したい。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	問題行動の防止	全教職員の共通理解・共通実践の下、生徒理解に努め、生徒の小さな変化も見逃さず、問題行動を未然に防止する。	C	HR内や部活動内でのいじめ、スマートフォンの不適切利用など、早期発見・早期対応によって防ぐことのできた可能性の高い問題行動が頻発した。	引き続き、全教職員の共通理解・共通実践のを図り、問題行動の未然防止に努める。また、外部機関による講演等を、できるだけ年度の早い時期に実施をする。
	安全教育の推進	交通規則の遵守やヘルメットの着用など、登下校中の交通安全意識およびさまざまな場面における「命を守る」意識の高揚を図る。	B	軽微な事故は発生したが、生命に関わるような重大事故は発生しなかった。また事故発生時も、相手との連絡先交換や警察等への連絡ができていた。	今年度同様、全教職員の協力を仰ぎ、各種交通指導を実施し、交通事故の防止に努めるとともに、さまざまな場面において「命を守る」ための指導を実施する。
	基本的生活習慣の確立	生徒の進路実現のために、挨拶、身だしなみ、時間及び健康の管理に関する指導を継続して行い、規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。	C	二学期以降、遅刻者が増加した。特に進路決定後の3年生に遅刻者が増えた。また服装指導や授業間の遅刻について、教員間の意識に差があったので改善を図った。	服装や遅刻に対する指導については特に教員間の意識の統一を図り、生徒が信頼感を持って教員と接することができるように努める。
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任や養護教諭、科、専門機関との連携を密にし、生徒の悩みの克服を支援する。	C	配慮を要する生徒の情報を職員会で提供するなど共通理解に努めた。発達支援センターとの連携し、その助言を支援に生かした	生徒指導連絡会でも、タイムリーな情報を提供し職員相互の共通理解に努めたい。
		特別な配慮を要する生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。	C	医師の診断をもとに、関係教員や保護者と協力して支援することができたが、進路変更となった。	引き続き関係教員との協議を経たうえで早期対応につないでいきたい。
人権・同和教育	現職教育の充実	生徒の自己実現に向け、14項目の共通理解・共通実践を図る。校内外の研修に積極的に参加し、教師自らが人権感覚を磨き、あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めようとする教員集団作りを目指す。	B	14項目において教員間で共通認識のもと実践できた。教員と生徒が共に人権意識の高揚を目指す集団になるために、いかに現実から学ぶことができるかを考えながら支援できた。	教員一人一人の人権・同和教育に関する課題に対して、取り組む意識の高まりを支援できるように、学校全体を取り込める体制づくりを見直し、更なる現職教育の充実を図りたい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員会を活性化し、様々な活動を通じて、差別を許さない集団作りを目指す。市内各校との交流学習を通じて、学んだことを生徒全体にフィードバックする。	B	原爆や戦争に関する新聞記事を読み、全校生徒で命や平和の尊さについて考え、人権意識を高めることができた。市内各校との交流を通じて学んだことを、人権だより「なかま」で紹介できた。	様々な人権課題に対して、自分事として取り組んでいけるような活動を模索する。
進路指導	進路意識の高揚	進路希望調査や進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。他課や外部との交流を深め、生徒の勤労観や職業観を育成する。	B	具体的な進路希望調査を2年の3学期に1回、3年の1学期に2回実施することにより、意識の高揚も進路希望の把握に努めた。また、昨年度と同様に企業説明会、進路ガイダンス、マッチングフェアを積極的に行い、特に進路ガイダンスでは、体験型学習の形式での実施した。	生徒だけでなく、担任や工業各科への進路情報提供を積極的に努め、全教職員でキャリア教育に取り組む体制づくりを考える。また、授業、学校行事、各種検査、ホームルーム活動を通して、早い時期から自分の適性を掌握し、将来の進路についてより具体的に考えさせる。キャリアノートの積極的な活用方法を検討する。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校紹介による就職内定率100%、進学希望達成率100%を目指す。	A	事業所訪問を積極的に行い、その結果を生徒に反映させるとともに応募前職場見学に主体的に参加させた。工場見学、インターンシップなどの取組からも職業観・勤労観の育成ができていた。学校紹介の就職率の決定率100%を年内に達成した。進学についてはセンター試験受験者がいるため、1名未定となっているが目処はついている。	挨拶やマナーなど学校生活の中で学ばせること、基礎学力の向上、コミュニケーション能力の育成に努める。進学希望者には、1・2年次からオープンキャンパスなどに参加させ、意識の高揚を図る。
情報管理	ICTの活用及び情報モラル教育の充実	授業における各教科の有効的なICT活用方法や情報モラルに関する効果的な指導方法を研究する。	C	専門教科などで情報モラル教育に関する指導を行っているが、積極的に取組むことができなかった。	更なるICT機器の積極的な活用に関する啓発活動を行う。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	新しい情報管理システムの導入に伴い、使用方法、個人情報漏えい防止対策、セキュリティに関する啓発を強化する。	B	機器環境の更新などもあり、セキュリティに対して意識を高めたが、十分に徹底できていない面もあった。	新しい情報管理システムに対応できるスキルの向上とともに、個々の意識を高める活動を積極的に行う。
保健厚生	健康管理能力の育成	保健委員会活動を通じて体と心の管理に対する意識を高め、自己管理ができる生徒の育成を目指す。	B	保健委員会で生徒の生活習慣について調査し、その結果及び望ましい生活習慣のあり方について保健だより・掲示物等で啓発活動を行い、体と心の管理に対する意識を高めた。	保健委員会で健康に関する様々な問題について取り上げ、情報を発信するとともに、生徒全員が自主的に体と心の管理能力の育成に取り組めるような活動を模索する。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練の内容を見直し、防災意識の昂揚に努めるとともに、安全点検を徹底して、施設面でも危機管理を行う。	B	愛媛県、今治市が実施するシェイクアウト訓練等の機会を活用し、防災情報の活用方法の学習を中心に関心や理解の向上を図った。	家庭の防災意識の高揚を図るため、具体的な災害情報等を活用した啓発活動を機会を増やす。
渉外広報	PTA活動の活性化	生徒数の減少とともに保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものを今後も維持していく。	B	PTA球技大会や今工祭では、例年通り活気あるものになっている。PTA総会は、昨年度に比べ若干増加した。PTA研修旅行も開催でき、参加者も増加した。	PTA会長をはじめとした役員同士のコミュニティができており、リーダーシップによって活気あるものになっている。
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。	B	今工新聞・きぼう(年2回)では生徒作品や生徒の活動を取り入れたり、部活動での活躍した生徒の声を取り入れることができた。	毎月のPTA通信はHPに掲載しているが、紙媒体での情報提供も継続して行う。
		体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、志願者数増加へつなげる。	A	体験入学や今工夏休みおもしろ講座など小・中学生対象のイベントを行ったり、ほかの事業に地域と連携して取り組んだりして、積極的に外部に発信した。	今後も継続した研究の様子など、本校の取組を積極的に地域に発信し、魅力を感じてもらえるような方策を考える。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。